

主日礼拝 9月11日（日）

題 「導き給う神」

テキスト：ペトロの手紙Ⅰ 5章1～14節

皆さん、おはようございます。

個人的なことです。40年ほど前、当時の西ドイツに3カ月ほど一人で教会関係の研修にでかけたことがあります。たどたどしいドイツ語で苦労しました。その中で一番の楽しみは家族や知り合いが送ってくれる日本からの手紙やハガキでした。聖書は神さまからの愛の手紙と昔から言われています。

今日の聖書箇所は、ペトロの手紙Ⅰの最後の章ですが、ペトロは心こめて、遠く離れていたキリスト者に手紙を送ったのだと思います。

今日の聖書の箇所は、「長老たちへの勧め」です。長老とは、生まれたたてのイエスにある群れの中にいた群れのリーダーのことです。手紙では、ペトロは自分を長老の一人と呼んでいます。ただペトロの生存中には長老制度という制度はまだなかったようです。ペトロのことばを変わって手紙に書いた人と言われる12節に出っていますが、**シルワノ**という人の存在が浮かび上がって来ます。「12:わたしは、忠実な兄弟と認めているシルワノによって、あなたがたにこのように短く手紙を書き、勧告をし、これこそ神のまことの恵みであることを証しました。この恵みにしっかり踏みとどまりなさい。」とあります。

長老とは、イエスの群れである教会の指導者であり、年長者であったようです。人生経験を積んだ人たちだったと思われます。

ちなみに、後にはカトリック教会から分かれたプロテスタント教会には、宗教改革者カルヴァンの教えを大切にする長老主義教会という教派も生まれています。合同教会である、日本キリスト教団でも現在でも大きな存在となっています。長老主義教会は、教会形成を大切にし、聖書を基本として、教義や教理を大切に信徒訓練に励み、信徒の中から選ばれた長老たちの指導・奉仕を中心に教会を形成して行くように思えます。

「1:さて、わたしは長老の一人として、また、キリストの受難の証人、やがて現れる栄光にあずかる者として、あなたがたのうちの長老たちに勧めます。」ペトロはあえて、「ひと言」勧めているのです。ペトロは、かつてガリラヤ湖畔でイエスの「わたしについて来なさい。」ということばを聞いてそれに従った人物です。イエスの十字架を前に恐れて「イエスを知らない。」と3度も拒んだという弱さもあったのですが、復活にイエスに出

会い再度「わたしについて来なさい」と声をかけられ立ち上がって行きていった人物です。彼は信徒として多くの厳しい迫害を受けました。イエスの十字架の死を知っており、まさに「キリストの受難の証人」です。この手紙では、各地にいるイエスにある群れの長老たちに勧めているのです。

「2:あなたがたにゆだねられている、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をしなさい。卑しい利得のためにではなく献身的にしなさい。」

プロテスタント教会では万人祭司と言われますから、もちろん教員員全員にあてはまることですが、牧師の就任式の時などに読まれます。

「あなたがたにゆだねられている、神の羊の群れを牧しなさい。」と。

この言葉はヨハネによる福音書にもありますように、ペトロが復活されたイエスさまから直接聞いたことばです。「強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をしなさい。卑しい利得のためにではなく献身的にしなさい。」

「卑しい利得のためにではなく」とは、自分の利益のためではなく、という事です。

「3:ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。

むしろ、群れの模範になりなさい。」

「権威を振り回してもいけません。」とは、「ワンマンぶりを発揮しない」ようにと言われます。詩編にある「力を捨てよ。」という言葉を読みました。「むしろ、群れの模範になりなさい。」それが何より一番、群れを育てることになるからです。

「4:そうすれば、大牧者がお見えになるとき、あなたがたは**しぼむことのない栄冠**を受けることになります。」ちゃんとふさわしいご褒美が与えられるということです。「しぼむことのない」という言葉は、「火などが消えることのない」とか「消滅することのない」とも訳せるようです。また「しぼむことのない栄冠」は、しぼむことのない花と言われていたアラマントスの花、競技の勝利者に与えられた冠を想像させます。それを受けることができる、与えられるということです。

「5:同じように、若い人たち、長老に従いなさい。皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、／「神は、高慢な者を敵とし、／謙遜な者には恵みをお与えになる」からです。」

「謙遜を身に着ける」とは、「謙遜を身に結びつける」ということと言われます。

年若い人たちへの忠告です。基本的に年長者を敬うこと。旧約聖書の箴言 3 章 34 節) (p994) を引用しています。

「しかし、皆互いに謙遜であること。なぜなら、／『神は、高慢な者を敵とし、／謙遜な者 には恵みをお与えになる』からです。」と言われます。

教会の交わりでは、年齢を超えてお互いに尊重し合うことが何より大切なことなのです。尊重しながらフ親しみのある関係を持つのです。

続いて、

「6:だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。」と語られています。人の前で低くするのではなく、まず神の前で低くするのです。その姿勢が人に対してもでてくるのだと思います。

「7:思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。」

特に7節のことばは、暗記しておく助けになります。わたしも昔、苦しみの時に助けてもらった言葉です。「心にかけていてくださる」とは、関心を持つてくださると言われます。日常生活の中で苦しみや問題のただ中にある者に愛なる神さまは関心を持って、心をかけてくださる方なのです。

「8:身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。」

「身を慎んで」とは、「しらふでいること」という言葉です。イエスさまは、ぶどう酒を飲むことを禁止されませんでした。優秀な人でも、現実にはアルコールで失敗する人はいます。アルコールに飲まれると、人間誰しも、抗しがたい力に支配されやすくなるのだと思われます。

9:信仰にしっかり踏みとどまって、悪魔に抵抗しなさい。あなたがたと信仰を同じくする兄弟たちも、この世で同じ苦しみに遭っているのです。それはあなたがたも知っているとおりで。

「10:しかし、あらゆる恵みの源である神、すなわち、キリスト・イエスを通してあなたがたを永遠の栄光へ招いてくださった神御自身が、**しばらくの間苦しんだ**あなたがたを**完全な者**とし、強め、力づけ、揺らぐことがないようにしてください。」 「完全な者」という言葉は、「癒し、壊れたものを修復し、正しく整える」と言う意味だとする聖書学者もいます。

これは励ましと希望のことばだと思います。信徒としての苦しみはあるけれども、それはしばらくの間であること。それは神が愛する者たちを育て、鍛え、

整え、土台を固めてくださる時、育てられる訓練の時なのだと思います。

神さまが地上のどのような試練の中でも守り導いてくださるという信仰、導き給う神への信仰・信頼を持ってこの世を生きて行くことができるようにしてくださるのです。ペトロは、イエスに従うと気持ちを持ちながらも

イエスの十字架を前にして、3度も「イエスを知らない」といった自分の不甲斐なさを知り、それでも再び癒され、整えられた体験をしたのです。

11:力が世々限りなく神にありますように、アーメン。

「神にありますように、」は「神にある。」「力は永遠に神に」となる。

ペトロの手紙Ⅰには「結びの言葉」が添えられています。祝福のことばです。

「14:愛の口づけによって互いに挨拶を交わしなさい。キリストと結ばれ

ているあなたがた一同に、平和があるように。」平和のことばが添えられています。

信徒同士が互いにキリストに結ばれて交わりを持って苦難の中を生きて行くことを励ます愛と励ましのメッセージがペトロの手紙なのだと思います。神さまは導き給う神なのです。きっと手紙の最後には

「岩」「教会の礎石」を表すペトロの名が記されていたのではないだろうかと思像するのです。

主の平安を祈ります。